
競技要項（大会特別規定）

- 第1項 ベンチは若番が一塁側、**ロージンは両チーム**、ボールボーイは両チーム2名とする。（ボールボーイは原則ベンチ入り選手とする）
- 第2項 各チーム派遣の**審判員は、別紙対戦表に明記された審判を原則**とする。
- 第3項 各球場のグラウンドルールは、試合開始前に各会場の責任審判員により説明を行う。
- 第4項 本大会は代表決定トーナメント戦を採用し、三位決定戦も行う。（**代表決定トーナメント戦の競技詳細については別添参照**）
- 第5項 試合は7回または2時間制とし、5回をもって試合成立とする。（5回までは2時間超えても試合を行う）なお、試合成立後の延長戦は行わず、即タイブレーク（最大3回：1アウト満塁）を行い、なお同点の場合は最終出場メンバー（18名）による抽選にて勝敗を決定する。（**但し決勝戦は除く**）
- 第6項 **5回以降7点差および4回以降10点差をもってコールドゲームとする。（但し決勝戦は除く）**
- 第7項 **メンバー交換は前試合4回終了後**、大会本部が指定する場所にて、**監督・代表選手1名が集合し、所定のメンバー表（5部）**を提出し、担当審判員並びに本部役員立ち会いのもと、先攻後攻を決定する。
- 第8項 試合前のシートノックは7分間とし、ノック時のボールボーイは必ずヘルメットを着用する。
なお、天候によってはサイドノックに変更する場合もある。（原則、各補助員は登録選手に限る）
シートノックを行う場合は、サイドノックを行うことを禁ずる。
- 第9項 **試合前にノックやトスバッティングを行うことを禁止する。**但し、外野フィールドにおいては、アップシューズ着用に限り（**土でも芝生でも**）、アップやキャッチボールを認める。
- 第10項 次試合チームの**ブルペン入りは一切禁じる（球場外にブルペンがある場合も含む）**
なお、次試合チームのブルペン入りは、前試合終了後とする。
- 第11項 **ブルペン捕手は、スタンディングの場合であっても必ず防具を着用（特にキャッチ面）し、捕手の安全を守る保護選手を1名帯同させること。**（保護選手も必ずヘルメットを着用すること）
- 第12項 **参加チームが棄権**した場合は**不戦敗**とし、**繰り上がり制度は採用しない。**

その他の注意事項

- 各チームは、会場到着後、速やかに大会運営本部が指定する受付手続きを行うこと。
- 各チームは、当日の試合が全て終了し、会場を退出する際は、大会運営本部が指定する退場手続きを行い、「次回指示書」を受け取ること。
- 各チームの放送係は、第1試合の試合開始40分前までに必ず名札を付けて待機しておくこと。
- 審判へのお茶出しのアナウンスは行わない。（**4回終了後のメンバー表交換のアナウンスは行う**）
- 試合成績表の記録者は、名札を付け**予備球**を持って記録室に入室のこと。
- 各チーム応援団は、鳴り物やメガホン**2本**を叩いたり、**球場器物を叩いての応援を禁止**する。
- 本大会は**関西連盟が指定するソーシャルディスタンスに定められた規程を遵守**すること。

代表決定トーナメント戦における競技要項の詳細

日本選手権中国大会（代表決定トーナメント戦）の競技要項詳細については、下表のとおり行う。

| | 決勝戦まで（三位決定戦） | 決勝戦（代表決定戦） |
|--------|--|------------------|
| 試合成立 | 5回完了 | |
| 正式試合 | 7回 | |
| 投球回数制限 | あり（上限到達選手は、捕手への交代も制限） | |
| 時間制 | あり（2時間制） | なし（時間無制限） |
| コールド | あり（4回：10点差、5回以降：7点差） | なし（棄権の場合はコールド適用） |
| 延長戦 | なし | あり（最大9回裏まで） |
| タイブレイク | あり（1アウト満塁：最大3イニング） | あり（決着がつくまで） |
| 抽選決着 | あり（タイブレイク後、同点の場合） | なし |
| 審判 | 【準決勝まで】球審・二塁：本部、一塁・三塁：各チーム（担当は対戦表を参照） 【準決勝から】全審：中国支部審判部 | |
| 禁止事項 | 一日4試合、一日ダブルヘッダー、ナイターゲーム ※全て原則 | |

上表の詳解については下記のとおり。

【決勝戦までの適用について】※三位決定戦含む

試合成立ならびに正式試合

試合は7イニングまで行い、時間制を採用する。試合開始から2時間を超えて新しいイニングには入らない。

※ 但し、以下の場合例外とする。

- 試合成立（5回完了）までは、2時間を超えても試合を行います。
- 後攻チームがリードしたまま攻撃中に2時間が経過した場合は、その時点で試合を打ち切ります。

コールドゲーム

4回10点差 または 5回以降7点差。（大会中に棄権した場合は、7-0の5回コールド負けとする）

タイブレイク

試合開始から2時間または7回を終了し、同点の場合は次の回から最大3回のタイブレイク戦に入ります。

！重要！ タイブレイク戦に入った時点でタイムカウントは止まります（時間制の適用外）

- タイブレイク戦は正式試合終了後、同点の場合は必ず適用します。（2時間を超えていても必ず実施）
例：5回終了後、2時間を経過し同点の場合は、6回から最大3回タイブレイク戦を行う。
6回終了後、2時間を経過し同点の場合は、7回から最大3回タイブレイク戦を行う。
7回終了後、同点の場合は、8回から最大3回タイブレイク戦を行う。
- タイブレイク戦を行っている途中に2時間を経過しても、途中で打ち切りません。
- 最大3回のタイブレイク戦を戦い、それでも同点の場合は、両チームの最終メンバー9名にて勝敗抽選を行う。

【決勝戦の適用について】

試合成立ならびに正式試合

- ・ 試合は7イニングまで行い、**時間制を採用しません**。（7回までは時間無制限）
- ・ ※但し、**試合の成立は5回**となります。（野球規則：競技に関する連盟特別規則（少年部・学童部）による）

コールドゲーム

コールドゲームは**採用しません**。（但し、大会中に棄権した場合は、7-0の5回コールド負けとする）

延長戦

- ・ 7回終了し、同点の場合は**最大9回裏まで延長戦を行います**。

タイブレイク

- ・ 9回裏までの延長戦を行い、同点の場合は10回表より、**勝敗の決着がつくまでタイブレイク戦を行います**。

サスペンデットゲーム（特別継続試合）について

降雨及び日没などにより、試合の途中で中止された場合、特別継続試合を適用します。

適用するケース

- ・ 試合が成立する前（5回完了する前）に中止になった場合。
- ・ 試合成立後、7回を完了するまでに、残り時間がある場合。

特別継続試合のルール

- ① 中止となった元の状態から継続するため、**元の試合で交代した選手は出場できない**。
- ② 監督・コーチの交代は認めるが、試合前に大会本部へ変更メンバー表を提出すること。
- ③ **投手の投球回数制限はそのまま生きる（リセットされない）**
- ④ 残り時間は元の試合の経過時間から引き継ぎ、合算で2時間とする。
- ⑤ 特別継続試合の日時、球場、審判員はリーグ役員にて決定する。

注1）特別継続試合は、原則として、**翌日の第一試合**に割り当てられます。

注2）**試合成立後（5回終了後）に中止となった場合は、リードしているチームが勝利となり、特別継続試合は適用されません**。

注3）試合成立後（5回終了後）同点で試合が中止の場合は特別継続試合を適用します。

※タイブレイク中に、中止となった場合は、特別継続試合は適用されず、両チームの最終メンバー9名にて勝敗抽選を行う。（タイブレイクの再試合は行わない）

注4）試合中止の判断は、審判員、大会役員、球場責任者の協議判断によるものであり、当該チームが意見を申し出ることはできない。（日没の場合も含む）